

## 1、紹介文

私にとって、一番大切なコミュニティは家族だと思う。私の家は、両親、弟、妹の五人家族である。

父は技術者として、時々海外へ出張する。いつもお土産として、それぞれの国のコインを送ってくれる。その結果、私はコイン収集を興味として身に付けた。父は優しい人間だ。私たちが殴ったり、叱ったりしたことは一度もない。母は主婦で、家族の皆の世話をしなければならない。毎日家事に追われて、休む暇もない。しかし、母はいつもこう言っている。「忙しければ忙しいほど良い。母としての幸せが感じられるから。」弟はバスケットが得意で、いつも自分が我が家のイケメンと誇っている。現在は、南京信息工程大学の一年生として、新しい大学生活を楽しんでいる。妹は、現在、高校二年生だ。大学入学試験のために、精一杯勉強している。彼女の様子を見ると、あの時の自分と比べて、たくさんの思い出がよみがえる。私は蘭州大学日本語学科の三年生で、先月交換留学生として日本に来た。今は秋田大学で新しい留学生生活を過ごしている。

大学に入る前は、家族の皆と一緒に住んでいた。毎日、授業の後、家へ帰った。食事をする時、身近な出来事について皆で話した。週末や祝日などは、家族と一緒に旅行に行ったり、買い物をしたり、いろいろなことをして、非常に楽しかった。だから、あの時の私にとって、家族が一番重要なコミュニティと言えるだろう。私の生活、または勉強も家族のサポートで順調に行われたのである。家族と離れば、私は何でもないと思う。

大学に入ったら、初めて家を出て、大学寮に住み始めた。大学が家から遠くて、毎日家へ帰ることができなくなった。夏休みと冬休みの時だけ家へ帰るのである。ある程度で、私は家族から独立していると言える。

先月日本に来て、一人暮らしを始めた。しかし、家族との絆はあまり弱くならない。ネットチャットを通じて、いつでも家族と連絡できるからだ。何だか家族と離れるという感じがあまりなさそうだ。また、最初慣れなかったとき、家族の皆はいつも私を慰めた。家族のおかげで、ついに日本での生活に慣れた。

## 2、取材散歩に行ってみて

取材のために、グループのメンバーと一緒に散歩するつもりだった。しかし、初めの日は大雨だったので、教室でしゃべることしかできなかった。自分にとって大切なコミュニティについて話しながら、皆に写真を見せた。ユンソクさんは誕生日の時、ホストファミリーからもらった動画を見せて。異国でそんなに優しいホストファミリーを持つのは非常に幸せだと思う。里奈さんは大学祭の時サークルメンバーと撮った写真を見せてくれた。皆の笑顔を見ると、ダンスに対する熱情が感じられた。蘭奈さんは学習塾の写真を持ってきた。自分は講師として働くのは本当に素晴らしい。私は弟の写真を持って行って、皆に見せた。

二回目はトレーニングルーム、里奈さんのサークルの練習の場所へ行った。そこで写真を撮った。そして、食堂で話し合った。皆からいろいろなアドバイスももらった。レポー

トを書くのには本当に役立った。

### 3、話し合い相手について

私が選んだ話し合い相手は弟だ。家族の中で、私にとって、弟は一番特別な存在だと思う。年が近くて、子供の頃から、いつも弟と一緒に遊んでいた。時々も喧嘩したが、今まで、あの時のことを思い出したら、とても幸せだったと感じられる。

中高時代の時、毎日、弟は自転車で私を乗せて学校に行ったので、彼氏なのかと勘違いされたこともあった。今でもよく友達に笑われるのが、いい思い出だと思う。先日、ネットチャットの時、弟にそう言った、「あなたのせいで、日本に来て初めて自転車を練習したのが、ばかばかしい。」なんとなく弟はいつも私の世話をしているようだ。

大学入試の前に、時間を節約するために、私は家へ帰って昼食をするのをやめた。だから、弟は毎日お弁当を持ってくれた。昼寝もせずに半年続けた。感謝の気持ちなんて口から出なかったが、実際はとても感動した。

日本での一年間に、弟と会うことができない。しかし、いつもネットチャットを通じて連絡している。生活や勉強上の悩みなどを話し合ったり、お互いの近況を知ったりして、喧嘩もあまりしない。

このような弟を持っていることは非常に幸せだと思う。

### 4、話し合い結果

レポートを書くために、先週の土曜日に、弟とネットチャットをした。彼にこの授業を簡単に説明した。そして、彼を話し合い相手に選定した理由を述べた。レポートの内容や自分の考えも紹介した。最後に家族について彼の意見を聞いて、いろいろ話し合った。

子供の時のこともたくさん話した。あの時、どんなに小さなことでも、喧嘩の原因になっていたようだ。お互いに殴ったら、母にもう一度殴られる。今は何年も経っても、やはりそれが面白かったのだと感じられる。子供の時の自分の考えは、今では全然理解できないという感じがある。

弟は私と一緒に住んでいた時、一番印象深かったことは英語補習だと言った。英語が苦手なので、中学校の時から、私は英語の勉強を手伝った。毎日、彼を勉強させるため、それが理由でよく喧嘩してしまった。でも、確かに英語の成績は上がった。

私は一番印象に残ったことはバスケットの試合だ。弟はバスケットが大好きだ。時間さえあれば、運動場で友達とバスケットの試合をする。時々私は水やタオルを持って、応援に行く。あの時の試験に追われる私にとって、激しい運動を見るのもストレスを減少する方法だった。

弟が家族は世界で一番温かい場所だと言った。家族と一緒にいれば、何でもできる。しかも、何か失敗があれば、家族はいつも応援してくれる。

### 5、家族と私

この授業で、「〇〇と私」という課題を初めて聞いたとき、思わず、「家族と私」が思い浮かんだ。これもなぜこのテーマを選定した理由だった。なぜ家族は私にとって大切なのか、私もこれについていろいろ考えた。

私から見れば、家族というのはたったの同じ家で住む人たちではなく、お互いにしっかりした絆がある集団だと思う。家族は避難港のような存在だ。いつでも、どこでも、寄港することができる。どんな失敗や挫折があっても、家族は永遠の後ろ盾として、私をサポートしている。家族がいるからこそ、一生懸命に勉強や仕事をするのである。

これからも家族のために、努力しなければならないと思う。

## 6、「コミュニティ」「コミュニケーション」とは何か

私から見れば、コミュニティはコミュニケーションが起きる場所だ。言い換えれば、コミュニケーションはコミュニティのメンバーを繋がるものだ。コミュニティといえば、いろいろなことが思い出すかもしれない。学校、会社、サークルなどは全部コミュニティと言える。これらの中で、たぶん家族が一番小さいなコミュニティだろう。しかし、家族もコミュニケーションが一番多いところだと思う。

## 7、クラスについての感想

このクラスで、一番感動されたことは、家族に対しての考えだと思う。以前は家族の絆が当たり前なことだと思ってしまった。家族のために自分が何かができるのを考えたことは一度もなかった。多文化コミュニケーションの授業を通じて、家族というコミュニティについて、いろいろナことを考えさせた。家族の皆は私のためにいろいろなことをしているのも分かった。これからも自分のできる範囲で努力したいと思う。